

 女性医師の窓

## 映画鑑賞

浅ノ川総合病院皮膚科 島田 由佳

秋の3連休2日目の午後、上の娘は中学の部活動で朝から留守、取り残された下の娘を連れて映画を観に行くことにした。休日出勤の少ない夫も、その日は私たちに同行すると言い、3人で近くのシネマ・コンプレックスへ出掛けた。

この秋は邦画が堅調なようで、一番人気はお台場のTV局一押しの「踊る大捜査線・THE FINAL 新たなる野望」。興行収益40億円超えの大ヒットだそう。しかし、わたしは特に織田裕二ファンという訳でもないし、殺人事件あり展開の速い刑事ドラマは小学校低学年の娘には刺激が強すぎる。夫が見たがったのは、洋画で「エクスペンダブル2」、アクション映画である上に日本語字幕版で、わたしも娘も即座に却下。高倉健の「あなたへ」はNHKの「プロフェッショナル」でも取り上げられていたし、しっとりとした良い映画だと思うが、亡き妻の散骨なんてテーマが子供には難しすぎる。「白雪姫と鏡の女王」はグリム童話を現代風にアレンジしていて面白そう。ジュリア・ロバーツは大好きだし、リリー・コリンズ（フィル・コリンズの娘さんとか）のパレエーションも素敵だったと聞いたが、あいにくと吹き替え版は午前中に終了していた。

そんなこんなで消去法で決定したのが「ひみつのアッコちゃん」。言わずと知れた赤塚不二夫の名作マンガの実写映画だ。パンフレットによると、1969年にテレビアニメ化され、以後も1988年と1998年にシリーズ化されてTV放映されている。初回の平均視聴率は19.8%を記録し、日本全国でアッコちゃんブームが巻き起こったそうだから、わたしは第一次世代？ 当時大流行したアッコちゃんのコンパクト付きペンダントを祖父に買ってもらい、何処に行くにも喜んで身に付けていたのを思い出した。ああ懐かしい…。右肩上がりの高度経済成長の真っ只中、実家のテレビには何のためか観音開きの扉が付いていた。携帯やインターネットなんて想像すら出来なかったし、電話もテレビも一家に一台。今から考えれば不便な生活だったが、誰もが未来は明るいと思っていたと思う（…多分）。日々の診療の中で、受付の若い職員に対して些細な理由で激昂する人、半年ぶりに受診したのに直ぐに治る薬を出せとすぐむ人、やたらと怒りっぽくなっている人々を目にするにつけ、最近の日本人は便利さや溢れる情報と引換えに余裕を無くし、慎み深く勤勉な国民性や聡明さを失っているかも…と心配したりする。

肝心の映画の内容はと云うと、キュートでポップなラブストーリー。オシャレ好きで可愛いアッコちゃんが、化粧品会社のエリート社員と胸キュン恋物語を繰り広げる。主演の綾瀬はるかとは文句なしで可愛いし（ちなみに来年のNHK大河ドラマのヒロイン役）、渋い俳優のはずの大杉漣や谷原章介のコメディイもい味出していて面白かった。「テクマクマヤコン、テクマクマヤコン」…呪文を唱えて希望が叶うとしたら、何を願おうか？ 育児・家事・介護・仕事、てんてこ舞いの毎日を忘れて、女友達と数日間の海外旅行に出かけたい！習い事もしてみたい！などと妄想してみる。無理とは分かっているけど、少しは気が晴れた。映画が終わった瞬間、娘は「あ？、面白かった！」と言。夫も綾瀬はるかのファンになったようだ。明るく前向きに真面目に生きていたら、何か良いことが起きるに違いない。少なくともそう信じて日々を暮らしたい。なぜだかそんな風を感じさせてくれた映画だった。